

第3回ワークショップ 高齢化とごみの収集方法について 【全体まとめ】

1 高齢化に必要なサービス（ごみ出しについて）

サービスを必要とする人の状況把握（介護、病気、エレベータのない高層住宅）⇔高齢者の実態調査
近隣の助け合い⇔自治会での対応には限界がある。
事業者との連携（新聞配達業者、宅配業者、マンションの管理者）
戸別収集
高齢化に伴い分別が困難になることへの配慮

2 収集方法と長所・短所

収集方法	良い点	悪い点
ステーション収集	近所とのコミュニケーションがとれる。 収集作業が楽 動物の被害を少なくできる。	マナーが悪い（集合住宅、時間、分別） 集積場所までの運搬が負担（距離、天候） 集積所の清掃が必要
愛の一声ごみ収集	安否確認ができる。 ごみ屋敷の発生防止	介助者の負担増（分別など） 個人のプライドを傷つける恐れがある。
戸別収集	マナーの向上（分別、時間） ごみ減量意識の向上 ごみ出しが楽になる。	費用負担増⇔有料化は必要⇒個別の経済状況に配慮 集合住宅の課題が残る。 困難な人に福祉からのアプローチが必要（分別、排出） 動物の被害への懸念

3 高齢化に必要な収集方法

誰でもごみ出しに困難な状況となった時に、究極の収集依頼SOSが出せる方法の検討（プライバシーの確実な保護）
愛の一声ごみ収集が必要な人の情報共有（プライバシーを確実に保護して関係者で共有）
地域の助け合いによるごみ出しの取組⇔必要だが、現状では困難
戸別収集について、モデル地区で試行し、効果を判断する。
ごみ集積所を分別がわかりやすいよう色分けする。